

野焼きによる感動の景観づくり

大分県 九重町
飯田高原野焼き実行委員会／九重町

1 社会資本の概要

大分県九重町は、大分県の南西部に位置し、標高 800m から 1,700m に達する「くじゅう連山」のふもとにあります。その町の多くが阿蘇くじゅう国立公園に指定されており、公園内には、草原による美しい丘陵風景が続く「飯田高原」や、平成 17 年に、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録された「タデ原湿原」があります。



やまなみハイウェイから望む飯田高原

このような素晴らしい自然景観を一目見ようと年間を通じて多くの観光客が訪れ、やまなみハイウェイなどの沿道は、九州でも屈指のドライブコースになっています。さらに、全国の実業団や大学、高校の陸上部の合宿地としても知られており、沿道がマラソンコースとして整備されるなど、九重町では、美しい景観をいかしたスポーツツーリズムが展開されています。



美しく草原が広がるタデ原湿原

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

かつては牛馬の採草放牧地等として地域住民により野焼きが行われていましたが、昭和 30 年代の産業構造の変化や担い手の高齢化により、野焼き文化は衰退しました。このような状況が続く中、「人々が感動する景観を取り戻そう」と平成 9 年に設立されたのが飯田高原野焼き実行委員会です。

野焼きは、重労働で危険な作業にも関わらず、平成 9 年から現在に至るまで継続的に行われています。例年、9 月～10 月にかけて、延べ 100 名程

度の参加者により延長約 13km の防火帯（延焼を防ぐ帯状の区画）を設置し、3 月下旬～4 月上旬にかけて、伝統的な手法を用いながら延べ 150 人程度で野焼きが行われています。多くの住民や企業、団体等の協力を頂きながら活動が進められる一方で、地元小学生に、環境学習を行ったり、防火帯作りを体験させたりするなど、野焼き文化を次世代に継承するための活動も行っています。



伝統的な野焼き手法による火入れ作業



会長による地元小学生等への環境学習

3 活動の成果や波及効果等

当団体の活動範囲は、当初の約 400ha から、現在、約 600ha に拡大され、この活動によって維持される沿道からの景観は観光資源として欠かせないものになっています。また、野焼きによって草原や湿原の環境が維持されることや病害虫が駆除されることにより、ヒゴダイやサクラソウなどの希少な植物をはじめ多種多様な動植物が生息できるようになったり、乗馬やナイトハイクなどの様々な自然を体感できるイベントが開催されるようになるなど、この地域に様々な効果をもたらしています。

さらには、隣接の「坊ガツル湿原」において実行委員会が立ち上がり、野焼きが復活するなど、当団体の活動は周辺地域に波及しています。



沿道に咲く絶滅危惧種のヒゴダイ



サクラソウ



乗馬体験



ナイトハイク

所在地

大分県九重町

活動主体及び連絡先

飯田高原野焼き実行委員会
(0973-73-0070)

対象となる社会資本

県道 11 号及び町道筋湯長者原線からの草原景観
※管理者：大分県、九重町

喜びの声



受賞者

飯田高原野焼き実行委員会
会長 高橋 裕二郎

コメント

この度は平成 29 年度「手づくり郷土賞」に選定いただき、誠にありがとうございます。

九重町の四季の美しさは「春は野焼きの黒、夏は新緑の青、秋は紅葉の赤、冬は雪の白」と表現されます。私達は、一時途絶えた野焼きを復活させることにより美しい草原景観を維持しています。

永く活動を続け、次世代に引き継ぐことが我々の使命だと思っています。今回の受賞を励みに引き続き地域振興に寄与していきたいと思っています。

活動内容

- ・野焼き活動の復活、維持
- ・環境教育への協力 等

活動の経緯

平成 9 年 飯田高原野焼き実行委員会設立
タデ原湿原周辺の野焼きを 32 年ぶりに復活
以後、野焼き範囲を拡大しつつ活動を継続中

